

2024 学校評価公表シート

認定こども園岩見沢聖十字幼稚園

1、園の教育目標

・あかるい子ども ・元気な子ども ・かしこい子ども ・やさしい子ども	聖書の言葉に親しみ、苦しいときや悲しいときにこそ、くじけずに進める子ども 豊かな自然の中でからだをきたえ、こころもからだも芯から粘り強い子ども さまざまな文化に触れ、行事をつくる体験から学び、自分たちで考え行動できる子ども 悲しんでいる人、困っている人に共感できる優しい子ども
---	---

2、本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画

・子どもの育ちを支える園を保護者と共に創る	・教職員の力量向上と同僚性の醸成	・認定こども園へのスムーズな移行
-----------------------	------------------	------------------

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
・園の教育課程は幼稚園の教育要領を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成している。	・園の教育理念であるキリスト教の精神を大事にし、一人一人がそのままで愛され育つような保育を目指し、新しい幼稚園教育要領の改訂・施行を受けて、「非認知能力を育む自主的な遊び」ができる環境整備を大きな柱として進めている。
・幼児期の発達にふさわしい生活を展開できるように指導計画を作成している。	今年度も「子どもの主体的な遊び（学び）」を大切する保育」について、担任および支援の先生方が相談を重ねながら実践を深めることができた。関連して、毎年招いている保育環境の講師から、今年も年間3回にわたり、環境整備について職員と保護者とが、実践を通して学ぶことができた。満3歳児クラスのうちから「自分で選ぶ」「自分で決める」「自分でやる」経験をさせ、高低差のある園庭で自然の素材（土・水・砂・木・花・火・野菜・果物など）に触れさせながら遊んだり、絵本の世界で想像力を育てることに力を入れてきた。日々、子どもたちの陽気な笑い声がひびき、職員のゆったりした声かけや、子ども自身に考えさせる指導が目立っていた。
・安全で清潔感のある環境構成をしている。	・園庭の遊具はほとんど木製で、遊具の周囲の土は常に腐葉土をすき込んでふかふかにしているため、怪我がとても少ない。毎朝の園庭チェックを必ずしており、危険なものが落ちていないか、蜂や有害な毛虫、動物のフンやカビなどがないかなどをチェックしている。また、すべての保育室に成長に見合う設計のロフトを設置したことにより、遊ぶための床面積が増え、ゆったりと安全に過ごすことができている。その年度の子どもに合わせて、動線を整理するなどしながら安全を確保している。 ・冬季は「おやぢの会」による除雪や雪遊び場の整備などで、安全な環境が守られた。また、今年もスズメバチや毒キノコ、動物の侵入、夏の猛暑、大雪など、自然の脅威に対しては、その都度情報交換を密にしながら全職員で対処したりし、大きな事故やけがはなかった。しかし、園舎屋上の雪庇落としなどは、大変危険な作業であり、市内では死亡事故も多かったため、今後は雪庇落としの工夫や、業者による雪下ろしなどを計画していきたい。
・幼児一人一人の姿を受け入れ、その子の良さを認めるよう心掛けている。	・配置基準数を超えて教職員を多く配置しており、情報共有する時間を設定しながら、チームとして子どもたち一人一人の保育にあたることができた。日々の反省会や、学期ごとのケース会議などを通して、全職員で全園児の保育に関わる意識を持った。また、特別支援教育の必要な園児に対する指導方法の研修や、関係機関・病院などへ保護者と同行するなどして、保育方法の改善を図っているが、年々、市からの関係会議の呼びかけも増え、効果的なアドバイスをいただきながら日々実践している。
・保護者との信頼関係を築くように努めている。	・個人懇談、送迎の時間、お便りノート、電話連絡、園からのお便りなどで園児の様子や園の活動を保護者に伝える努力をしている。また、ホームページをリニューアルし、日々の保育の様子を伝えている。預かり保育「のはらクラブ」でも、今日の保育の様子をホワイトボードに描いて玄関に掲示するなど工夫をしている。保護者の皆さんも何かあれば担任によく相談して下さり、共に子育てに関わらせていただいている。 ・また、今年初めて、土曜日に親子園庭開放を呼びかけたところ、希望者が多かったため、午前（満3歳・年少）と午後（年中・年長）に分けて、二日開催した。自分の子どもだけでなく、よその子どもと遊んだり、親同士で和やかに交流する場面などが見られ、とても良かった。子育ての悩みを分かち合える場を今後も提供していきたい。
・地域の自然や社会とのかかわりを持つように努める。	・今年度も市内の農園でブルーベリー狩りをすることができ、幼児の背丈や手の大きさ、食べられる量にぴったりで、地域を知る活動として効果的だった。例年に引き続き、森での活動「ネイチャーらんど」やすり山登山、そり遠足など、地域の自然の中で常に活動することができた。また、岩見沢農業高校の水田での田植えや稲刈り、教育大学でのバルシューレ、地域講師による茶道、歩くスキー、近所の方に講師になってもらっての野菜作りなど、たくさんの力をお借りして保育活動が展開されている。

・保育者としての専門性を高めるための各研修会に積極的に参加する。	・特別支援教育に関しての法人内研修「ぶどうの木」（ZOOM開催）に年4回参加し、実践レポートを通して積極的に学び合うことができた。また、特別支援教育に関わる市内や道内の多くの専門家とつながり、定例会議や相談活動を行うことができた。 ・遊び環境に関しての研修は、東京から2名の専門家を招いて、年6日（3回×2日）の研修とワークショップを保護者とともに行うことができた。 ・道内の聖公会施設職員研修会では、平取のバチラー保育園で学び、ほかにも道内各地で行われる公開保育、岩見沢私立幼稚園連合研修会では、市の臨床心理士から子どもの発達支援と保護者へのかかわりについて学んだ。
・人事管理・財務管理を適正に行う。	・二人担任制が定着し、支援の先生も含め学年部会のチームがとてもスムーズに機能していた。勤怠管理システムとミドルリーダーからの声掛けもあり、定時退勤できるようになってきた。学年チームで相談しながら年休を取得したり、業務の分担でお互いの健康を守るなど、働きやすい職場に近づいてきていると感じる。預かり保育も保育士の確保ができ、チームで進めることができた。バス・校務担当職員の退職も無事、後任に恵まれた。園長・教頭・主任・副主任で行う運営委員会も必要に応じてこまめに関き、機能していた。今後も組織的な動きをより進めていきたい。 ・財務管理は、公認会計士により、適正に運営されていると認められている。一番大きな工事は、昨年度、悪天候で延期になった屋根の塗装だったが、無事に行うことができた。また、積雪が例年の1.5倍となったため、除雪と排雪にかなりの出費があった。そのほか、1階トイレに2台目の洗濯機を配置し、水落としの電化、クーラーの清掃や園舎のワックスがけ、預かり保育と親子クラスの床材の張替え工事を行った。人件費では、特別支援の必要な園児のために教職員数が多くなっているが、管理運営費補助金（特別分）で補填した。また、今年度も保育に係る人の処遇改善が行われたおかげで、職員の処遇は改善されている。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

A	・幼稚園教育要領で幼稚園教育の基本としている「自発的な活動としての遊び」を最大限引き出す環境整備を通して、日々行われる教育・保育に、教職員が力を尽くすことができた。 そのことが保護者にも理解され、子どもたちの成長を喜んでくださる様子がアンケートに表れていた。 ・長年、課題となっていた教職員の超過勤務についても、小さな努力の積み重ねや協力によって、日々改善され、働きやすい職場になってきていることがアンケートにも表れていた。 ・全体を通して、保護者・教職員・園長・関係者評価において、Aと評価された。
--------------	--

5.今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	・連絡事故等が起こらないよう、ルールブックや連絡ツールを利用しながら、教職員・保護者が協力して、子どもたちの安全を確保していく。 ・各種感染症予防のための消毒や換気などを継続していく。また、園内環境整備を通して、挑戦できる遊具での不慮の事故が起きないように、毎日の安全点検を徹底していく。 ・防災では、園独自での火災・地震訓練やコミュニティ全体の防災訓練への参加など、実践的な防災訓練を続けていきたい。
指導計画の見直し	・夏の猛暑による思わぬ事故を防ぐため、夏休み期間を長くしたり、フェスティバルを7月から6月に前倒ししたり、運動会の時期を遅らせるなどの見直しを行っている。 ・基本的な計画を基にしながら、学年チームで、その年の子どもたちの興味関心を拾い上げ、より創造的な活動を展開していけるようにしたい。
園内環境の整備	・園内と園庭の環境整備と保育内容を連動させて、より子どもたちが自主的に活動を選択し、子ども同士が相談したり協力し合う活動に対応できる環境づくりを進めていきたい。
園舎の改修・増築	・外壁塗装工事、屋根の防水塗装工事を無事に終え、園舎の大きな保全工事はひと段落した。 ・狭いホール、園舎の水回り等の老朽化と、不足している保育室や収納場所などの解決のため、園舎の改築または増築の計画を具体的に話し合っていきたい。